

総 評

1. 貴専攻の特徴

・貴技術経営研究科システム安全専攻は、システム安全の専門家を育成するというこれまでわが国には存在しなかった特色ある専攻として創設され、これまでに多くの安全の専門家を各分野に輩出してきている実績を有している。このことは高く評価できる。

2. 貴専攻の目的に対する指摘点

・一方、貴専攻は、技術経営研究科に所属し、目的として「安全技術とマネジメントスキルを統合」をうたっている。しかし、技術経営であるならば、「マネジメントに必要な専門知識を身につけた人材の育成」も使命であるはずであるが、カリキュラムをみると、安全技術に重きがあり、マネジメントに関しては十分でないように見える。経営系専門職大学院としては、「安全技術とマネジメントの関係が不明瞭である」という認証評価委員会の指摘はもっともなものであった。

・また、教員スタッフも、安全技術に関する実務家教員という面からは素晴らしい実績を有する教員スタッフを揃えているが、組織やマネジメントという面から眺めると、決して、十分な経験を持った教員が配置されているとは言い難いのは事実であった。

3. 企業経営におけるリスクマネジメントの重要性

・今後の企業経営では、特に技術経営という観点からは、経営者のトップとしてリスクに関する判断能力と管理能力が必須なものになることは間違いない。企業経営にまつわるリスクの中でも安全に関する価値観が、コンプライアンスと共に極めて重要なファクターになってくる時代を迎えつつある。すなわち、企業経営者は、リスクマネジメントを常に念頭において経営を行う必要があり、その中でも安全はトッププライオリティに位置しつつある。

・今後の社会の安全・安心のためには、企業の果たす役割として、組織マネジメントの中で安全の確保・維持・制御という安全に関するリスクマネジメントは、企業の理念として最も重要視すべき観点になるはずである。

・貴専攻が実社会の多くの分野から希望者を集めているのは、高度な安全技術者の育成というだけでなく、社会が企業経営における安全の重要さを強く意識され始めているからと考えられる。

・この点からは、今後のわが国の健全な経営のために安全面から貢献できる人材の育成を目指す貴専攻の先見性、及び、現在、展開されつつある貴専攻の地道な教育活動等は評価できる。この点を目的、及び中長期ビジョンの中で明確に提示すべきであったと考える。

4. 望まれる方向性

・残念ながら、経営と安全の関係の重要性を十分に貴専攻の目的として表現しきれていなかったし、カリキュラムとしても表には明確には現れていなかった。本来の目的、趣旨を明確に専攻の目的に開示するとともにカリキュラムにも反映させ、教員全員が本来の目的を理解し、カリキュラム構成について情報共有していることが望まれる。

・技術経営研究科に所属しているからといって、経営やマネジメントに関する科目と安全技術に関する科目の両方共をバランスよく広範囲に配置する必要はないだろう。反って、

特色を薄める結果になる恐れがある。

・一般的な技術経営の専攻ではなく、安全に特化した特色ある専攻として、技術基盤と組織経営の融合を目指すという理念のもとに、基本的には、現在のように安全を主体にカリキュラムを編成することは、特徴を生かすために必要であると判断される。

・ただし、その中で、組織やマネジメントについては、既に教員公募がされているが、その分野の教員を採用して基礎科目群として配置して、その中でしっかりと全員に教育をする必要がある。

・更に、すべての安全の専門科目の中では、常に安全技術とマネジメントと関係を意識して講義し、必ず、組織やマネジメントの中での安全技術の役割や責任を明確にするような授業展開が望まれる。

・安全技術の科目は、機械安全、労働安全を例にして教育するにしても、統一的な理論体系、広くすべての安全の分野に共通する方策、考え方を重視すること。

・特に、技術系出身の履修者には、安全技術をマスターするとともに、マネジメントの基礎を取得して、将来、企業のトップとしてリスクの管理や判断ができるように、組織の経営職に上昇していくように教育プログラムを設計すること。そのためには、マネジメント関係の知識は、戦略、マーケティング、会計等の個別知識ではなく、リスクマネジメント、システム安全での組織論、企業継続計画（BCP）等の経営層に期待される内容が望ましい。

・管理の立場を経験している履修者には、マネジメントを体系的に整理・復習する機会とするとともに、必ず安全技術の基礎を理解させて、トップマネジメントとして安全技術の重要性を理解してもらうことを目標とすること。

・教員においても、マネジメント出身であろうと、技術出身であろうと、「安全技術とマネジメントの関係」を自覚して、教員全員が安全技術とマネジメントに関して研鑽されること。

・認証評価委員会から、実地調査において本専攻は「特定の安全問題だけでなく、企業経営の基本理念となりうる安全方策を企画・立案しうる専門的職業人の育成を目指す」ということを理解して頂いたことは、大変有り難いことであり、このミッションを貴専攻が、対外的に明確に表現し、それに沿ったカリキュラムの充実と体系化、及び教員の充実をはかることを望む。これによって、本来の趣旨に沿ったわが国では際立った特色を有する専攻になると確信する。

・認証評価委員会とは、コミュニケーションを通じて、一般の技術経営専攻ではなく、リスクマネジメントの中でも安全に特化した特色を持つこれからのわが国に望まれる専攻であることを理解してもらう努力が必要と考える

##### 5. 評価結果への対応について

・報告「認証評価結果への対応について」の第1章認証評価結果への対応の基本的な考え方の中で、認証評価委員会から指摘されている多くの点が自己点検・評価を通じて明らかに示され、対応がなされている。

・更に、指摘されている各項目に対しては、それぞれ、適切に改善策が示されていると評価する。

平成 28 年 7 月 13 日

長岡技術科学大学大学院技術経営研究科システム安全専攻外部評価委員会委員長

向殿政男

